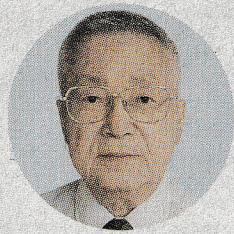


1945年の終戦直後に創業したシャツハウスイトウ(本店豊橋市広小路3の1、伊藤卓也代表、電話0532・52・7458)は、東三河地方で唯一生き残ったフルオーダーシャツの仕立て屋だ。保存する顧客の型紙は千枚を上回る。このほど伊藤卓也代表の長男、政樹氏が46歳にして事業承継を決断した。「向こう20年、細々ながら需要は続き、その中で必ず生き残る」と決意。高級生地を使ったマスクを商品化するなど、新しい事業展開も視野に入れ始めた。

(三遠・立松鉄洋)



伊藤卓也代表

明日を拓く経営

東海で頑張る中小企業

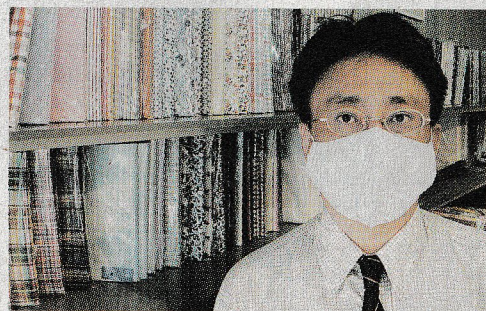
仕立て屋 シャツハウスイトウ

現代表の卓也氏が父親から引き継いだ40年ほど前、豊橋市内にフルオーダーシャツの仕立て屋は6店舗あったという。百貨店などが手掛けるパターンオーダーのシャツと異なり、素材、縫製ともに優れたが単価(現在価格ベース)は1万5千〜3万円と高額。既製服が普及し、フルオーダーシャツの仕立て屋は減って

いった。同社によると、現在東三河地方で同業者は見当たらない。

高級生地のマスク商品化

新事業展開も視野に



コロナ禍を受けて商品化したマスク。左後ろはシャツやマスクの材料となる生地

でフルオーダーのみ受ける。採寸から納品までおむね1カ月。リピーターが7割、新規顧客が3割。年配のリピーターは定年後にビジネスシャツを着なくなるが、その分を新規顧客が補う。創業から75年の間、経営を揺さぶるような受注減がなかったのは顧客の信頼にしっかり応えてきた証拠だ。

2020年に始まったコ

46歳長男、事業承継を決断



シャツハウスイトウが生き残ったのは、受注が増えなくても従業員を増やさず、納期を伸ばすことで対応したことが大きい。固定費の増加を極力避けたわけだ。新しい出店の要請も断り続けた。現在の本店だけで着実に顧客ニーズに対応してきた。

現在はイタリアからなどの輸入生地、国産高級生地「輸入生地を使ったフルオーダーシャツ」

「今までの顧客と違う層の人が買ってくれている」。新しい事業展開の糸口になりそうだ。

5年... され... はな... それ... 上... 備... 門全... と手... そ... ぼ... の性... 失敗... いと... 吉品... と大...

くればやし・かいと 紅林 魁さん 中 日 ク ラ フ... 事業製造部... 10

父の写生文

にデザインされている。有名なだけで、匠、高浜虚子の娘だったこと